

・研究発表1. イタリアの幼児音楽教育法について

ーリトミック教育とピアチェンツァの新しい音楽教育法の接点からー

川村 祥子(東京文化短期大学)

《発表内容要旨》

保育士養成校では平成12年4月1日から施行された保育所保育指針や幼稚園教育要領の保育内容の感性と表現に関する領域「表現」に対応すべく様々な授業を展開している。本学では「音楽表現」「身体表現」という授業の一部でリトミック教育の実践や研究を実施している。学生たちは子供たちのより良い表現を誘発する音作りに模索している。

今、最も注目されている幼児教育実践を世界に発信している北イタリアのレッジョ・エミリア州に位置する小都市ピアチェンツァで生まれた新しい音楽教育メソッド「RITMia」(以下リトミアと略称)の理念や実践方法を紹介し、リトミック教育との共通点について考察する。

リトミアの考案者のSonia Simonazzi(ソニア・シモナッツィ)は3歳児から10歳児を対象に、遊びと音楽活動と身体表現の融合を通じて、音楽能力と身体能力を向上させることを目的とし、様々な音楽の基礎訓練を提案している。次の項目は実践の一部である。

- Il tamburo (太鼓) 身体の下半身への意識。リズムの創造。
- Il frauto dolce (リコーダー) 身体の上半身への意識。メロディーの創造。
- La voce e il soffio del respiro (声や息) コミュニケーション能力。
- I "Silenzi" (沈黙) 集中力。

ダルクローズは「音楽のリズムは、無音(silent)と不動(immobilite)との関係においてのみ判断され得るものである。」と述べている。リトミアでも、「静」と「動」の知覚・感覚を教える必要性を「始め彼らの大半は沈黙という行為は話さないだけという簡単なことと認識しているが、その中の小人数は音を立てないために自ら沈黙の音を聴き、静止している。子どもたちは訓練の中で徐々に沈黙を知覚するようになり、集中力やリラックスを生み出せるようになる。」と述べている。

本発表ではリトミアの「沈黙を奏でる」という言葉に焦点を当て、その必要性について着目していく。昨年12月に参加した保育・福祉の仕事に就く人を対象とした音楽教育の講座の内容についても紹介をする。